

## A分科会 学校簿記入門

運営委員：山 路 道 彦  
山 中 豊  
齋 藤 淳 志

本分科会は、昨年の「会計基準と学校簿記」の分量が多かったため、そのうち、理論研修についてはB分科会「学校法人会計基準と計算書類の取扱い」に譲り、実務研修（演習）のみを行うこととしたものです。

本分科会では、学校簿記の実務経験が少ない方々29人を対象に、日常行う会計処理について「学校法人会計基準」に沿った実務研修（演習）を行いました。

教材は、資料②-1「学校簿記入門」、資料②-2「演習問題」、資料②-3「演習問題解答」を使用しました。平成25年改正に対応するため、及び、実務経験が少ない方々にも分りやすくするため、昨年のテキストの実務研修（演習）部分に大幅な改訂を加え、3分冊としました。

第1に、学校簿記のイメージをつかんでいただくために、学校簿記の全体像や学校法人会計基準、取引や仕訳について大まかに説明しました。

第2に、最も身近な業務となる資金収支計算の仕訳処理の実務演習を中心に行いつつ、「資金収支計算書」及び「活動区分資金収支計算書」を作成していただきました。

第3に、事業活動収支計算特有の仕訳処理について演習を行いつつ、「事業活動収支計算書」・「貸借対照表」を作成していただきました。

いずれにおいても、実務経験が少ない方々にも分りやすいように、なぜそのような仕訳となるか、「資金収支計算書」、「事業活動収支計算書」「貸借対照表」はそれぞれどのようなものか、噛み砕いて丁寧に説明しました。また、演習問題も多めに用意し、参加者には実際に手を動かして会計処理の過程をたどっていただきました。

各校の現場では会計処理はシステム化されており、仕訳伝票の起票と入力により自動的に帳簿が作成されるのが通常ですが、本分科会では、会計処理を手作業で行うことを通じてその過程を理解する機会を提供しました。

基本的な会計処理についてはほぼ一通り説明することができましたが、問題数が多かったため、最後の方は少し駆け足になってしまいました。ただ、この点は、テキストの解説を詳しくにして、復習にも使えるテキストとしておいたことで、ある程度はフォローしてあります。

来年度以降は、研修会の時間内に、最後まで丁寧な説明ができるようにすることが課題です。さしあたっては、問題を厳選することで対処することとなりますが、学校簿記の基本的な論点を一通り丁寧に説明するためにはもう少し分科会の時間が長いと良いとも思われます。

全般としては、本年度の本分科会は、初日に自己紹介を行って参加者相互の親睦を深めるとともに、参加者の学校簿記の理解を深めることもできたのではないかと思います。